

实践事例

指導の流れ（１～８）に合わせた実践事例及び特別支援学校の実践事例を示す。これらの事例を参考に各学校の状況に応じた授業を考案し実施すること。

※各事例について、「法やルールに関する教育」の指導項目でもある、「責任」「ルール」「公平・公正」「正義」を各表題に付記している。

1	知る（関心を持つ）	62
	・ 地域情勢を知る（経済、福祉、商工観光、農林漁業、教育）	
	・ 地域議会を知る（構成、委員会、議会制度、行政）	
2	調査する	66
	・ テーマ別調査（地場産業の現状と今後の可能性、少子高齢化 Uターン施策、雇用創出）	
3	分析する	68
	・ KJ法を用いて結果を分類、分析する	
	・ 仮説を立てて考えを深める	
4	考える、提案する	73
	・ 課題解決に向けて協働する	
	・ 仮説を検証する	
	・ 施策として提案する	
5	表現する	79
	・ マニフェストを作成する	
	・ 公約を作成する	
6	議論する	83
	・ グループディスカッションを行う	
	・ ディベートを行う	
7	判断する	99
	・ 複数の主張や施策の違いを見極める	
	・ 自ら理由付けをして判断し、賛成するものを選ぶ	
8	実践する	101
	・ 模擬選挙を行う	
	・ 事後の振り返り	
	特別支援学校実践事例	109

総合的な学習の時間 実践事例【知る】〔責任〕

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 地域再発見
- 3 指導のねらい 自分たちが暮らす地域のすばらしさを見つけ、地域社会の一員としての郷土愛を育てる。
- 4 本時の目標 地域の良さや誇れる点を知り、地域社会の一員としての自覚をもつ。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	地域の特徴	○地域の特徴的なこと（特に良さや誇れる点など）をあげる。（歴史・地誌・産業など）	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～2例を提示し、生徒が関心を示すように促す。 ・ 生徒の発言を数多く取り上げる。 	
展開	わたしたちの地域の良さや誇れる点を見つけてみよう				
	担当分野の決定	○グループ内で一人1分野の担当を決める（例「歴史」「観光」「地場産業や伝統産業」「自然」「人物」など）。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な歴史的事象・人物（偉人）・特産物などを提示することで調べやすくなる。 	ワークシート
	地域の特徴を調べる	○各分野についてインターネットを活用し、個別に調べる。	個別	<ul style="list-style-type: none"> （インターネットが使用できる教室環境で展開） ・ 最初に市町村のHPを検索するよう指示し、その後関連サイトを検索させる。 ・ 地域の良さや誇れる点を出来るだけ多く（または広く）調べさせ地域再発見につなげたい。 	ワークシート
	グループ交流	○個別に調べたことについて、グループ内で発表・交流する。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ずつ時間を区切り（1～2分間）、グループ内で発表させる。 	ワークシート
まとめ	グループ発表	○グループ交流で出た意見を発表する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の良さや誇れる点を共有させる。 	

総合的な学習の時間 実践事例【知る】〔責任〕

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 議会の傍聴
- 3 指導のねらい 地方自治体の最高意思決定機関である議会の傍聴を通して、地方行政への関心を高め公共的な事柄に参画しようとする意識や態度を育てる。
- 4 本時の目標 議会傍聴の事前学習として、地方議会のしくみを理解し、住民および有権者としての自覚をもつ。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	本時のねらい	○本時のねらいと学習内容を理解する。	一 斉	・議会の傍聴を予告し、住民（有権者）としての自覚を促し議会への意欲・関心を高める。	
展開	地方議会のしくみ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">地方議会のしくみを学ぼう</div> ○地方議会のしくみを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・定例会と臨時会 ・常任委員会と特別委員会 ・選挙権と被選挙権 ・国会と地方議会など ○本会議の「一般質問事項」一覧を見て議事内容を検討する。	一 斉	・市作成の議会案内冊子を使い地方議会のしくみや住民との関係を理解させる。 ・制度等の細かい点は深入りしないように注意しつつ、国会（国政）と比較する。	ワークシート
	質問や政策を考える グループ発表	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自らが議員であるとして、質問や意見・政策の提案を考えてみよう</div> ○（議会の議員を想定し）議会での質問・意見・提案をグループで討論させる。 ○グループ発表	グループ 一 斉	・生徒自身が議員の立場であると想定し、質問や意見、政策の提案などを話し合わせグループでまとめさせる。 ・「少子高齢社会」、「教育」、「防災」、「福祉」など具体的なテーマ設定を与えると話しやすい。	ワークシート
まとめ	振り返り	○学習内容を整理し、議会傍聴の視点を理解する。	一 斉	・生徒が意識をして議会傍聴するよう視点や注目点を示す。	

「議会の傍聴」～事前学習～

〈ノート〉 地方議会のしくみ

◇（地方議会の議員を想定し）議会での質問、意見、政策を考えてみよう。【グループ】

○ _____

○ _____

○ _____

総合的な学習の時間 実践事例【調査する】〔公平・公正〕

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 調査「わがまちの施策と地域の取組」
- 3 指導のねらい 地域社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、主権者として公正に判断する力を養う。
- 4 本時の目標 私たちの暮らすまちの具体的な施策を調べ、社会の一員として地域の現状と将来について考える。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	本時のねらい	○本時のねらいと学習内容を理解する。	一 斉	・自治体や地域でどのような施策や取組がなされているか調べ、現状と将来について考えさせる。	
展開		自治体の施策や地域の取組を調べてみよう			
	テーマ設定	○グループごとに調査するテーマを設定する。 ・「産業振興」 ・「少子高齢化対策」 ・「Uターン施策」 ・「教育政策」 など	グループ	・生徒が理解しやすいようにテーマについて解説を加え、身近な施策（又は他の自治体の施策）の事例を紹介し関心を高める。 ・施策（条例や制度）の名称のみではなく、内容・成果や課題についても詳しく調べさせる。	
	自治体の施策を調べる	○グループ内で分担・協力して調べる。 ・広報誌などの資料 ・インターネット（PCやタブレット） ・書籍や新聞記事など	個別	・市町村広報誌・議会広報誌など参考となる資料を各グループに複数部配布し、調査の手がかりにさせる。 ・可能なら情報処理室や図書室へ移動し調べさせる。	ワークシート 広報誌他
	グループ交流	○調べたことについて、グループ内で意見交換し整理する。	グループ		ワークシート
まとめ	発表と整理	○グループ発表と整理	一 斉	・施策や取組の成果と課題を取り上げ、地域の現状と将来について考えるよう促す。	ワークシート

公民科 実践事例【分析する】〔公平・公正〕

- 1 対象学年 第1学年
- 2 単元名 社会保障と国民福祉（5時間中、第1時間目）
- 3 指導のねらい 日本の人口減少の現状を理解するとともに、その原因について仮説を立てその解決方法を考える力を習得する。
- 4 本時の目標 資料を活用して、現状を理解する。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・ 教具等
導入	日本の人口の現状について 人口減少の影響	○資料を読み、日本の人口の自然増加率及び、今後の人口動態を理解する。 ○人口減少が数十年後の日本にもたらす影響について理解する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少するだけでなく、どの地域での減少が著しいかまで理解させる。 ・数十年後には、消滅する可能性がある自治体が、少なからず存在することを理解する。 	教科書 資料集 総務省 試算等
展開	仮説を立てる	○人口が地方から流出すること及び、合計特殊出生率が低下する理由について、考えさせるとともに、その解決方法やその具体的な方策について討論する。	グループ討論	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、個人で考察し、その後それに基づき、グループで討論する。 ・討論をする際のルール（自分のみが話さない。他者の意見を遮らない等）についても意識させる。 	ワークシート
まとめ	討論の結果を集約	○班の意見をまとめ、ワークシートに記入させる。			ワークシート

1 人口減少社会の到来！

- ・日本の人口：2015年＝
合計特殊出生率： 人(2015年)
- ・2100年の予想人口＝
- ・予想のままだと、2100年の日本はどうなっているでしょう？



2 人口減少・流出の理由

- ・なぜ、地方から人口が流出するのだろうか？



- ・なぜ、合計特殊出生率が低下するのだろうか？



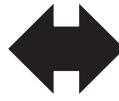
3 では、どうすれば？

① どうすれば人口が流入するだろう？

提案1



反論1



提案2



反論2



提案3



反論3



班としての結論

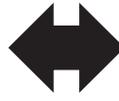


② どうすれば合計特殊出生率が上昇するだろう？

提案1



反論1



提案2



反論2



提案3



反論3



班としての結論



公民科 実践事例【分析する】〔公平・公正、正義〕

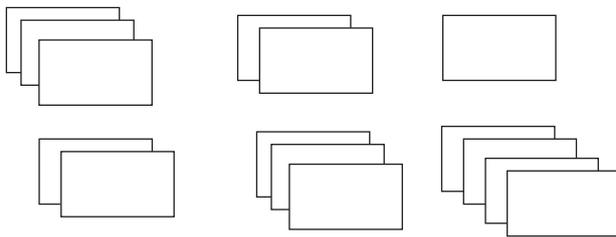
- 1 対象学年 第1学年
- 2 単元名 地域課題を分析する
- 3 指導のねらい 地域の課題や必要な施策を論理的に考えることで、現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を身に付けるとともに、公共的な事柄に自ら進んで参画しようとする意欲や態度を育成する。
- 4 本時の目標 自分たちの地域について知っていることや調べたことを、KJ法を用いて分類、分析し、地域の課題とその解決法を探る。地域の課題と解決法を探ることで、選挙の際に候補者の公約と自分が考えた課題を照らし合わせて投票に生かす力を身に付ける。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入		○選挙で候補者を選ぶためには、自分たちが暮らす市町村について良く知らないことと選べないことに気付く。	一斉		
展開	市町村の課題を考える	○KJ法を用いて、住んでいる市町村の抱える課題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・5～6人のグループを作り、付箋紙に書き出した課題について説明しながら模造紙の上に貼る。 ・付箋紙の内容ごとに小グループを作り見出しを書く。 ・小グループをまとめて中グループを、中グループをまとめて大グループを作る。 ・グループ同士の関連を記号で表す。 ・課題を文章化し、発表する。 	個別のちグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に調べたことを基にして考えさせる。 ・一人5つ程度、付箋紙に書き出させる。 ・一枚の付箋紙に書き出す課題は1つ。 ・グループ化の際は、無理やりどこかへ入れさせない。 ・グループ同士の関連は、関係有(=)、因果関係(→)、対立(↔)で表現させる。 	付箋紙 模造紙 マジック
	市町村の課題解決の方法を探究する	○KJ法を用いて市町村の課題を解決する方法を探る。 <ul style="list-style-type: none"> ・5～6人のグループを作り、付箋紙に書き出した解決の方法について説明しながら模造紙の上に貼る。 ・付箋紙の内容ごとに小グループを作り見出しを書く。 ・小グループをまとめて中グループを、中グループをまとめて大グループを作る。 ・グループ同士の関連を記号で表す。 ・アイデアを文章化し、発表する。 	個別のちグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人5つ程度、付箋紙に書き出させる。 ・一枚の付箋紙に書き出す解決の方法は1つ。 ・グループ化の際は、無理やりどこかへ入れさせない。 ・グループ同士の関連は、関係有(=)、因果関係(→)、対立(↔)で表現させる。 	
まとめ	本時のまとめ	○首長の選挙、議会議員の選挙の際には、考えた課題や解決方法を候補者の公約と照らし合わせ、候補者選びに役立てることができることを理解する。	一斉		

KJ法の進め方

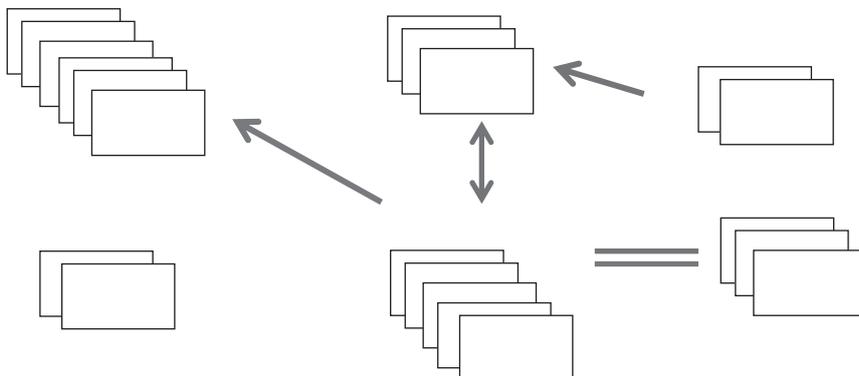
1. ブレインストーミングの要領で、思いついたアイデア、意見を付箋紙に書き出します。
2. 付箋紙を書いた本人が意見を読み上げ、簡単に説明します。参加者は付箋紙に書かれた内容で分類して、小グループにまとめます。無理にどこかのグループに入れることはしません。

イメージ図



3. 小グループに見出しを付けます。
4. 関連する小グループをまとめて中グループを作り、更に中グループをまとめて大グループをと、次々にグループ化していきます。
5. 全体をじっくり眺めて、グループ間の関係性を読み取り、それを文章化するなどして、問題の解決法を導き出していきます。

イメージ図



※総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来－有権者として求められる力を身に付けるために－』（平成 27 年）より作成。

公民科 実践事例【考える・提案する】〔ルール、公平・公正、正義〕

- 1 対象学年 第3学年
- 2 単元名 社会契約
- 3 ねらい 社会契約説を通じて国家を形成する意義を探究し、国家・社会の形成者として公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を養う。
- 4 本時の目標 社会契約を結ぶ過程を体験するなかで、みんなが協働できるようなルールを考え、提案することができる。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導	本時の内容把握	○国民が国家の支配を受ける理由を社会契約説を手掛かりに学習することを理解する。	一斉	・国家の刑罰も個人の権利を侵害していることに気付かせる。	
展 開	自然状態 社会契約を体験	<p>なぜ、個人が他人の権利を侵害することは許されないのに、国家はそれを行うのか。なぜ、私たちは国家の支配を受けなければならないのか。</p> <p>○法律や政府のない無人島に漂着した人々が「万人の万人による闘争」になるかをシミュレーションしてみる。</p> <p>○個人の生存・幸福追求のためには「協力」が必要であり、自然状態から協力するに至るためのルール（平和への努力・自然権の相互放棄の信約・信約の遵守）について、グループで考え、提案する。</p>	個別のちグループ	・ホッブズの考える万人の万人による闘争を考えさせる。 ・生き残るために「協力」して一斉に「自然権の放棄」がなされる必要があることに気付かせる。	ワークシート
	社会契約における信約と権力の在り方	<p>無人島で、「万人の万人による闘争」から生き残るために、島民に提案するルールを考えてみよう。</p> <p>○ゲーム理論を参考に自然権放棄の約束が遵守される保障が無いことに気づく。</p> <p>○自然権の放棄の約束を強制的に守らせるために国家の支配があることに気づく。</p>		・「裏切り」についても考えさせる。 ・互いに裏切らないための第三者による強制力が必要なことに気付かせる。	
	まとめ	国家を形成する意義	<p>○国家の支配が、個人の権利を守るための社会契約であることを理解する。</p> <p>○ホッブズの社会契約論では「自然権の無条件放棄」であり、絶対王政の正当化に利用されたことを理解する。</p> <p>○自然権の放棄や無条件の政府への譲渡によってできた国家では、個人の権利が保障されないことに気づき、国家の支配の在り方に興味を持つ。</p>		<p>・「自然状態」「自然権」はホッブズの考えるものであり、ロックやルソーの考える「自然状態」「自然権」とではそれぞれ違いがあることを説明する。</p> <p>・この時、ロックやルソーの思想にも触れておく。</p>

ワークシート

国家・社会の形成者として

1. 私たちは、なぜ国家の支配を受けるのか。

個人が別の個人の財産や身体を奪うことはあってはならないのに、国家が犯罪者に懲役刑や罰金刑を科して身体や財産を奪うことが認められているのはなぜだろうか。

社会契約説 を手掛かりにして考える。

(1) 国家ができる前の状態（自然状態）を考える。

・・・無人島での生活

A太郎が乗った飛行機が無人島に墜落し、生き残ったのはA太郎を含めた5人だけ。5人はそれぞれに自分が持っていた食糧を食べて命をつないでいた。5人の食糧は次の通り。救助が来るまで協力して分け合い、食糧を探しに行けば生き残る確率は上がるが、油断して誰かに今の食糧を奪われたら、生き残る確率は下がる。

	A太郎	B美	C子	D男
食糧	14日分	10日分	6日分	2日分

設定①「生きるために必要なことは何をしてよい。」・・・（自然権）

設定②「5人の能力や性格は同じ程度」

どんなことが起こっただろう？  自然状態を想像してみよう！

ホブズの言う「万人の万人に対する闘争」に

A. なる。

理由

B. ならない。

理由

(2) 生き残る方法を考える。－A. 「なる」場合を考える。

生き残るため、自分を守るためのルールを考え、提案しよう。

(グループで意見を出し合おう)

ルール① 平和へ向けて努力する。

ルール②

ルール③